

「飯山の誇り内山紙の現在」

城南中学校 小林将直

1 はじめに

飯山に伝わる文化の一つである「内山紙」について、調査し報告させていただいている。今年度は、時代とともに「内山紙」がどのように進化をし、単純に紙として障子紙等の姿だけでなく、どのような商品へと姿を変え、販売されているのかについて調査した。メトロポリタン長野で偶然、内山紙に関するショーケースと偶然出会い、そこに紹介されていた「阿部製紙」さんに足を運ぶことにした。内山紙を用いた新しい商品と合わせて阿部製紙さんについても紹介したい。

2 商品について

【和帳（小）（大）（特大）】



【懐紙】



【がま口】



【キーケース】



【紙縫りの名刺入れ】



「ホテルメトロポリタン長野」ショーケースより

【メトロポリタンで紹介されていた阿部製紙さんについて】



(抜粋して拡大して紹介します)

内山紙 阿部製紙

...

阿部製紙は2代目の土さん一義さんと3代目の拓也さん(写真)が切り盛りする工房です。伝統の障子紙などのほかに、現代の暮らしになじむ商品をと、ブックカバーや財布、はたまた糸状にして織りあげてカバンやキーケースに仕立てるなど、内山紙の新しい形を探求しています。

問い合わせ 阿部製紙

住所 飯山市瑞穂4894

電話 0269-65-2594

3 阿部製紙さん



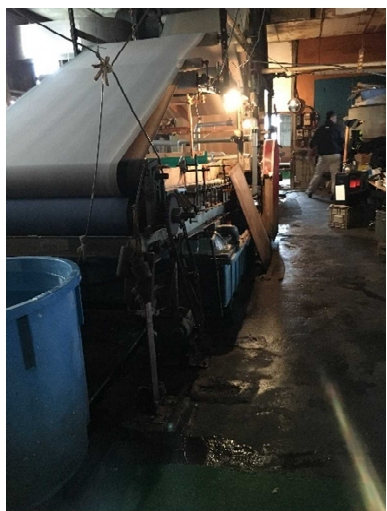
原料「こうぞ」と製造過程



漂白され真っ白になった原料



紙漉きの機械①



紙漉きの機械②



機械で作られた紙



製品となった紙



特大の障子紙



お財布



カードケース



葉っぱの入った絵葉書



野沢菜の入った紙



内山紙を用いた照明



家の外には楮の新芽が…



お礼状や表彰の数々…



2代目の阿部一義氏

4 まとめ

「内山紙」は元々の紙としての機能、とりわけ障子紙などの機能だけでなく、時代に合わせて、様々な姿に形を変え、人々の生活に関わっている。今回、取材させていただいた阿部さん親子は内山紙を用いた様々な商品を提案し、それが世の中に出回り、多くの人々を魅了している。障子紙をはじめ、内山紙で作られた商品には、どこかなつかしさや、愛着を感じる。時代が変わっても和紙は我々を魅了している。それが、「内山紙」で作られる様々な商品が選ばれている理由である。

飯山市には仏壇、スキー、そして今回特集させていただいた「内山紙」と日本を代表する文化が受け継がれている。飯山市の中学校に社会科教諭として勤務させていただいている私としては、これらの文化についてさらに研究を深め、授業でも扱っていききたい。そして飯山の中学生が飯山の文化に誇りと興味をもち、一人でも多く飯山の文化を継承していける人材に成長してほしいと願っている。

取材先：「阿部製紙」 住所 飯山市瑞穂4894 電話 0269-65-2594